

# 視察（研修）報告書

令和 6年 3月 5日

府中市議会議長 様  
創生会会長 様

会派名又は 創生会  
議員名 真田 光夫

日 時	令和6年2月14日（水） から 令和6年2月16日（金）
研 修 先	全国市町村国際文化研修所（JIAM）
研 修 コ ー ス	令和5年度
研 修 タ イ ト ル	図書館とまちづくり
参 加 者	真田 光夫 参加人数：47名
研 修 内 容	<p>目的：</p> <p>公共施設としての図書館の機能と役割について、近年そのあり方が見直されつつあります。公共施設の集約化、複合化が進められる中、まちの賑わいや再生を目指す地域活性化の核として図書館が注目されており、各自治体で様々な取組が進められています。</p> <p>この研修では、地域で必要とされる図書館とはどのようなものか、サービスの拡充はもとより、まちづくりの主体となる人々が集う交流拠点として、どのような役割を果たすことができるのか、その可能性について考えます。</p>
研 修 内 容	<p><b>タイトル：まちづくりと図書館の接点</b> 慶應義塾大学 名誉教授 糸賀雅児氏</p> <p>図書館は、かつての「読書の間」から「地域の情報拠点」へと進化し、まちづくりとの接点を広げつつありますが、その背景には国の交付金制度の活用が考えられます。そこで、ソーシャル・インクルージョンやSDGsといったグローバルな視点と生成AIの普及を前提に、まちづくりに限らない図書館との接点の多様性を考えます。</p> <p><b>1 図書館の「集客力」と「認知度」</b> Q：生涯学習施設等の利用状況 1位：図書館 43.2%、2位：いずれも利用しなかった 35.5%、 3位：博物館・美術館：21.2% Q：社会教育施設について、どの程度知っているか 1位：図書館 65.1%、2位：公民館 39.8%、3位：博物館 25.4%</p> <p><b>2 中心市街地を活性化した図書館の事例</b> 片山善博氏は、「図書館は民主主義の砦」 ○成功事例紹介 ・ひと・まち・情報 創造館「武蔵野プレイス」（NPO 法人の紹介など） <a href="https://www.musashino.or.jp/place/">https://www.musashino.or.jp/place/</a> ・瀧川市立図書館（北海道、市庁舎2階に図書館が移転した） <a href="https://lib.city.takikawa.hokkaido.jp">https://lib.city.takikawa.hokkaido.jp</a> ・大和市立図書館シリウス（神奈川県、保健師が日替わりで健康診断する）</p>

<https://yamato-bunka.jp/library/>

- ・ミライズ（徳島県美馬市、スーパーマーケットや交番が入っている）

<https://mimacity.jp>

- ・江南市複合公共施設 took + took = labo（愛知県、1階にAION）

<https://www.city.konan.lg.jp/shisetsu/1011034/1012938.html>

- ・せんだいメディアテーク（宮城県、3月11日を忘れないためにセンター）

<https://www.smt.jp/>

### 3 接点拡大の背景

#### ①まちづくり三法

- ・中心市街地の活性化に関する法律
- ・改正都市計画法
- ・大規模小売店舗立地法

#### ② 国土交通省による交付金制度の活用

- ・社会資本整備総合交付金（中心拠点区域における誘導施設、高梁市 TSUTAYA）

##### ○都市再生整備計画事業

布袋駅周辺の地区の都市構造再編集集中支援事業

和歌山市中心拠点再生地区都市構造再編集集中支援事業

##### ○中心市街地 暮らし・にぎわい再生事業（くらにぎ）

<https://www.mlit.go.jp/crd/index/kuranigi/>

##### ○社会資本整備総合交付金

[https://www.mlit.go.jp/page/kanbo05\\_hy\\_000213.html](https://www.mlit.go.jp/page/kanbo05_hy_000213.html)

##### ○民間都市再生整備事業計画

オガールプラザ（岩手県紫波町）都市再生整備計画

<https://ogal.info/information/ogal-plaza>

### 4 「まちづくり」と「図書館」の視点の違い

- ・まちづくりの視点からの図書館：国土交通省の政策・インフラ整備（集客力、賑わい創出、地域活性化）

#### ○岩手県紫波町 オガールプロジェクト（岡崎正信氏）

集客の核は公共図書館、図書館は普遍的集客装置、「公民連携の教科書」  
単独では不採算でも、集客の核は図書館です。

図書館は、不採算事業だが集客がある。

#### ○図書館の視点からのまちづくり「地域住民の暮らしに豊かさ」

（文部科学省の政策、資料提供、居場所提供、司書の存在）

「学び直し」と「居場所づくり」

人が育っていただくことが「まちづくり」

※両方の視点が大切です

### 5 「まちづくり」もとに再定義

まちづくり・ひとづくり：袖井孝子著

#### ①まちづくりの第1世代

地域社会の自治と住民の直接参加を基盤

②モデルと実験の第2世代  
ワークショップやデザインゲームなど

③地域運営をめざす第3世代  
ボランティアやNPO法人などの社会的組織

“地域づくりとは、地域住民等がその他の様々な主体とともに社会の形成に主体的に参画し、互いに支え合い、協力し合うという互惠の精神に基づき、パートナーシップを形成して地域の課題を解決する活動“

○生涯学習する場所（図書館）

- ・自由に知る権利
- ・生涯にわたり学ぶ権利

## 6 まちづくりを支える図書館の特性

「図書館を通じてまちづくりを行いたい」東近江市立八日市図書館（滋賀県）  
図書館ネットで様々の団体を束ねる。

図書館の特性

- ・施設の床面積あたりの集客力が大きい
- ・利用者の年齢・年代の幅が広い。
- ・毎日来館する人がいる。常連。リピーターが多い。
- ・無料で使え、平日・休日・昼夜を問わず開館している。
- ・司書という専門的職員が利用相談に応じ、ボランティア活動も盛んです。
- ・時間つぶしや趣味・娯楽から研究・調査まで目的が極めて多様。
- ・古今東西、森羅万象、あらゆる趣味と興味と知的関心に対応可能。
- ・短時間の立ち寄りから長時間にわたる滞在まで、自分の居場所がある。
- ・カフェ、書店、体育・スポーツ施設、学習塾など民間文化施設とも親和性が高い
- ・まちづくりを支える図書館の「課題解決支援サービス」

終わりに～まちづくりと図書館の接点を広げるために～

図書館フォーラム

- ・筑後市立図書館：認知症カフェ
- ・ちくごいきいき宅配：地元商店街と連携している（NHK）  
電話で予約受付、司書が選ぶことも可能  
（障害者、高齢者、幼児）メッセージも添える  
配達業務：地域の人たち（地元の商店街）  
地元商店街と図書館が連携をした。  
町のお医者さんが、雑誌スポンサー制度で寄贈している
- ・東近江市立廿日市図書館：共生の仕組み
- ・生駒市図書館：まちづくりワークショップ

POINT

図書館＝「まちづくり」を促進する重要なツール（触媒）  
人材を育成する場所 + ひとづくりの重要拠点

<p>所 感</p>	<p>図書館が単なる本の貸し借り場所を超えて、まちづくりの一翼を担う重要な拠点として位置づけられていることを示唆しています。</p> <p>国の交付金制度を活用し、地域社会と連携しながら、図書館が集客装置としての役割を果たす一方で、地域住民の暮らしに寄り添い、学びや居場所づくりにも貢献している点が注目されます。</p> <p>まちづくりと図書館の相互関係が強調され、地域社会における知的拠点としての図書館の存在感が確認されることを学びました。</p>
<p>研 修 内 容</p>	<p><b>タイトル：わたしたちの図書館をつくる</b>          県立長野図書館 館長 平賀研也氏</p> <p><b>1 図書館経営・地域経営の意思形成の問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の経営や地域の進め方において、どこに意思があり、どのように形成されるかが問われている。</li> </ul> <p><b>2 市民と共につくる図書館（瀬戸内市図書館の取組み）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市から永源寺町への事例を通じて、地域社会における課題への対応や学習プログラムの提供が図書館を通じて可能であることが示されている。</li> </ul> <p><b>3 図書館の社会的使命と市民の期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館が提供すべき「場」として、市民の知る権利や学習する権利を保障し、市民の自治や文化に関わる活動の拠点となるべきだとの指針が提示されている。</li> </ul> <p><b>4 市民との協働の必要性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治は「住民自治」の理念を内包しており、協働が市民の当事者意識を醸成し、「住民自治」の理念を具現化する一環として重要である。</li> </ul> <p><b>5 図書館友の会「もみわフレンズ」の活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館友の会が協働の一環として活動しており、市民のアイデアを引き出し、図書館づくりに貢献している。</li> </ul> <p><b>6 共同による図書館づくりのアプローチ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の利用者は市民であり、その幸福や自己実現からサービスデザインを始め、行政や図書館専門家と連携して具現化していくべきだとの提案がある。</li> </ul> <p><b>7 まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館づくりは人とまちを育て、自治へとつながるものであり、「じぶん育て」であり「まち育て」を目指すべきだと総括されています。</li> </ul>
<p>所 感</p>	<p>図書館経営と地域経営において、市民との協働が重要であることを強調しています。</p> <p>図書館が地域社会の課題に対応し、市民の「知る権利」や「学習する権利」を保障し、自治や文化に関わる活動の拠点となるべきであるという理念が示されています。</p> <p>特に、「図書館友の会」や市民との連携によって、市民のアイデアが取り入れられ、図書館づくりに市民が参加する姿勢が肯定されています。このアプローチは、図書館が地域社会に深く根ざし、市民と共に発展していくための良い手本となっており、本市も参考にさせていただきたいと感じました。</p>

<p>研 修 内 容</p>	<p><b>タイトル：市民と共につくる図書館～瀬戸内市図書館の取組み～</b>  京都橘大学 文学部 嶋田 学氏</p> <p><b>1 私的 図書館再発見考～豊中市から永源寺町へ～</b>  人口 6500 人、面積 181 km<sup>2</sup>  一般会計 35 億円、図書館総事業費 8 億 5000 万円  延床面積 1500m<sup>2</sup>、収蔵冊数 10 万冊</p> <p><b>2 切実な課題に直面した市民と自治体職員</b>  (地域社会に求められていたこと)  ～1 市 6 町での市町村合併と高齢社会の到来～  2005 年 2 月 滋賀県東近江市立図書館  「主人在宅ストレス症候群」黒川順夫 (著)  ・図書館は、他の施策の事業の改善につながる、きっかけになる学習プログラムを提供することができると気づいた。</p> <p><b>3 瀬戸内市での図書館づくり</b>  ・新瀬戸内市立図書館整備基本構想を立案  もみわ広場 (もちより、みつけ、わけあう)  ・7 つの指針  ・新図書館の基本方針  <a href="https://lib.city.setouchi.lg.jp/">https://lib.city.setouchi.lg.jp/</a></p> <p><b>4 図書館の社会的使命と市民の期待</b>  ①市民の「知る権利」「学習する権利」が保証される「場」  ②市民の教育や文化に関する活動ができる「場」  ③市民が自治にかかわり主権者として参画できる  ④市民が同時代的な課題と感ずることを考え、その解決に主体的に関われる  ⑤市民がコミュニティの課題について考え、その解決に主体的に関われる  ⑥市民が「自分の居たい場所」として感じられる「場」を市民が主体的に考え、意見を出し合い、創りあえる  ⑦子どもも一人の市民としてその権利が保障される  ⑧大人こそが学べ、自ら主体形成のための教養と知識を涵養できる</p> <p><b>5 市民との協働がなぜ必要なのか</b>  ①そもそも地方自治は「住民自治」の理念を内包している  ②代表制民主主義だけでは、多様化複雑化する自治体課題を解決することが困難な時代に直面している  ③協働は市民の当事者意識を醸成し「住民自治」の理念を体現することにつながる  ④自治体に政策形成能力が停滞している  ⑤自治に参画すること自体が市民の学習行為として重要</p> <p><b>6 図書館友の会「もみわフレンズ」の活動</b>  2017 年 1 月発足</p> <p><b>7 共同による図書館づくりとは</b>  ①図書館の便益を受けるのは市民  →市民がイメージする幸福・自己実現からはじめる  ②市民が得たいアウトカムから、サービスデザインする  ③実現させたいサービスを実装するために必要な備品、設備、施設 (建築デ</p>
----------------	---

	<p>ザイン)、政策ネットワークのあり方を、行政・図書館お専門家である司書が他の専門領域の行政職員とともに市民から引き出す</p> <p>④市民が具体的なアイデアを生成できない時、司書は経験と学習から得た知識を総動員してサポートする</p> <p><b>8 まとめ</b>  人育て、まち育ての図書館づくりとは「わたし」が「図書館」を使って「わたし」と「わたしたちの街」のために、「何か」を考え、感じ、行い、為すこと。  「じぶん育て」であり「まち育て」  「自治」ミュニシパリズム（地域主権主義）へとつなげたい</p>
<p>所 感</p>	<p>図書館と市民の協働に焦点を当て、具体的な事例を通じてその重要性を示しています。市民と図書館が連携し、地域の課題に対応するために取り組んでいるプロジェクトや図書館友の会の活動が、図書館づくりに市民の意見やアイデアを反映させている様子が鮮明に描かれています。</p> <p>また、自治の理念である「住民自治」を実現するために協働が不可欠であり、市民が主体的に学び、参画することが自治体の課題解決につながるという視点も示唆に富んでいます。</p> <p>図書館が地域社会と共に発展し、市民が自治体の活動に参加することが、健全なまちづくりにつながるという一例を知ることができました。</p>
<p>研 修 内 容</p>	<p><b>タイトル：図書館におけるリビングラボ等「共創」の取組みポイントについて</b>  デザイナー・キュレータ、アカデミック・リソース・ガイド株式会社  李 明喜氏  <a href="https://arg-corp.jp/">https://arg-corp.jp/</a></p> <p><b>実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須賀川市民交流センター</li> <li>・県立長野図書館 信州・学び創造ラボ</li> <li>・智頭町智慧の森ちづ図書館</li> <li>・板橋区立中央図書館</li> <li>・ターントルクこども館 やいず えほんと</li> <li>・瑞徳町図書館</li> <li>・キュレーション文化メディア芸術祭</li> <li>・ライブラリーリソースガイド（LRG）</li> <li>・日本の図書館建築等</li> </ul> <p><b>1 デザインザインの対象と実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・李明喜氏は、空間デザイン、コミュニケーションデザイン、プロジェクトデザインの分野で幅広い実績を有しており、須賀川市民交流センターや県立長野図書館などのプロジェクトに関与しています。</li> </ul> <p><b>2 知る自由の重要性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館が「知る自由」を基本的な立場として掲げ、知識の獲得を経験や相互作用のプロセスと捉えています。多様な他者や外の世界が存在することが、「知る自由」を支え、豊かな環境を生み出すとの立場が述べられました。</li> </ul> <p><b>3 共創の事例：福島県須賀川市の TETTE、小千谷市のホントカ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TETTE やホントカといった図書館やまちづくりの取り組みが紹介されています。これらは情報収集・編集、地域づくり、学びの環境づくりなど、様々な</li> </ul>

	<p>分野で共創とコミュニティの形成を重視しています。</p> <p>○福島県須賀川市 TETTE  <a href="https://s-tette.jp/">https://s-tette.jp/</a></p> <p>○小千谷市リビングラボ「at!おじや」  <a href="https://www.city.ojiya.niigata.jp/soshiki/nigiwai/livinglab.html">https://www.city.ojiya.niigata.jp/soshiki/nigiwai/livinglab.html</a></p> <p><b>4 ホントカ宣言</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホントカ宣言では、相互依存を重視し、文化としての相互依存への意識を高めることが強調されています。また、地域や文化の協力が、まちづくりや図書館の成功につながるとの立場が示されています。</li> </ul> <p><b>1 番大事なこともっとお互いに依存しましょう！  文化としての相互依存へ</b></p> <p>○小千谷市 ひと・まち・文化共創拠点 ホントカ  <a href="https://www.city.ojiya.niigata.jp/soshiki/nigiwai/atochi-1-1.html">https://www.city.ojiya.niigata.jp/soshiki/nigiwai/atochi-1-1.html</a></p>
<p>所 感</p>	<p>デザインやコミュニケーションを通じて図書館とまちづくりを進める際のアプローチや考え方が示されました。</p> <p>知る自由の大切さや地域共創の具体的な事例が紹介され、相互依存を基盤にしたまちづくりの意義が強調されています。これらのアイデアは、まちづくりにおいてコミュニティと協力し、文化的な豊かさを築く上で重要な示唆を与えています。</p>
	<p><b>タイトル：わたしたちの図書館をつくる</b>  まちライブラリー提唱者 磯井純充氏  一般社団法人 まちライブラリー代表理事  <a href="https://machi-library.org">https://machi-library.org</a></p> <p><b>1 まちづくりとひとづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりは、森泰吉郎氏が強調するように「ひとづくり」が重要であるとされています。人々の協力と共感が、まちづくりの根本にあるとされています。</li> </ul> <p><b>2 つむぎやの活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つむぎやの友廣裕一氏が80の限界集落を歩き回り、地域の実態を知る努力を行っています。これは地域への深い理解と接触が、まちづくりにおいて重要であることを示唆しています。</li> </ul> <p><b>3 問題の捉え方とまちライブラリーの提案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早稲田大学の友成真一氏が、問題は単純なものではなく、マクロからミクロへと捉える必要があると述べています。まちライブラリーは、ソーシャルマーケティング型のイベントを提案し、利用者がイベントを企画し、コミュニティを形成するアプローチを強調しています。</li> </ul> <p><b>4 成功と失敗の傾向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成功する傾向のある人々は、場づくりを目指していない、趣味や課題に挑戦している、自発的に行動する人々です。一方で、失敗しやすい傾向のある人々は、ビジネス志向で成果を求める人や、制度に縛られがちな人々です。</li> </ul>

	<p>どんな人がうまく行って、どんな人がつまづくのか</p> <p>○うまく行きやすい人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場づくりを目指していない人</li> <li>・趣味の本を集める、遺された本を活かす</li> <li>・自らの課題に挑戦している</li> <li>・人からの頼みでなくて自らのやりたい！</li> <li>・無意識の場づくりになっている人</li> <li>・やって楽しい、楽だと思っている人</li> </ul> <p>○つまづきやすい人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場づくりを目指している人</li> <li>・行政、企業は失敗しやすい</li> <li>・成果を求める人＝ビジネス系の人</li> <li>・制度や仕組みに固執する人</li> <li>・他の人の依頼ではじめた人</li> <li>・他者のため、人のためにやる人</li> </ul>
<p>所</p> <p>感</p>	<p>まちづくりにおいては人々の協力やコミュニティ形成が不可欠であり、特に地域の実態に触れることが重要であることが浮き彫りになります。</p> <p>また、問題解決においては単純な捉え方ではなく、広い視野で物事を捉えることが必要であるという視点も示唆に富んでいます。成功と失敗の傾向の違いについても、自発的なアクションや地域への深い理解が鍵を握っていることが分かりました。</p>